

以森伝心

理事長 柏原康夫筆

No.

44

京都の森を守り育てる運動に参加しませんか

巻頭特集

鎮守の森に見る 森と信仰の歴史

- 京都の森の仲間たち よさの三四の森の会
- 企業等参加の森林づくり
- 豊かな森を次世代へ 森の出前授業

おみくじ



鎮守の森に見る 森と信仰の歴史

—— 石清水八幡宮宮司 田中恆清 つねきよ

平安京の北東の鬼門を守護する滋賀県大津市の延暦寺えんりきじに対し、西南の裏鬼門に当たる男山に、王城守護・国家安泰のため祀られた石清水八幡宮いしづみ はちまんぐう。山上に八幡宮が創建された男山は、八幡宮と一体となって広く尊崇の対象とされ、神域である全山・麓一帯には、アラカシなどの照葉樹林を中心に多くの植物種が生育する天然林が広がっており、京都府の歴史的な自然環境保全地域にも第1号として指定されています。いわゆる鎮守の森と神社との関わりについて、田中恆清・石清水八幡宮宮司にお話をうかがいました。

■ 京都府歴史的な自然環境保全地域

自然環境が歴史的な遺産と一体になって優れた歴史的な風土を形成している地域を、京都府が指定している。男山は八幡宮と一体となって広く尊崇の対象とされ、八幡宮の森は、今日立派な天然林となっている。樹齢約600年～700年と推定されるクスノキの巨樹も見られる。



神域ゆえに守られてきた原生林

石清水八幡宮の創始は、縁起『護国寺略記』(石清水八幡宮文書)によると、貞観元年(859)、大安寺の僧侶・行教が宇佐八幡宮で「都の近くに移り都を守護する」との八幡神のご神託を受け、男山山頂に「八幡大菩薩」を勧請。翌年、朝廷によって社殿が造営されたと伝えられる。

「明治の廃仏毀釈以前の日本では、神仏習合ということで神社と寺院が一体であることが普通で、石清水八幡宮でも護国寺や大塔、男山しじゅうはちぼう四十八坊といわれた僧坊などが境内に立ち並び、仏教的要素が濃い「宮寺」でした。本殿では毎日読経の声が聞こえ、社僧という僧侶が社務を取り仕切っていました」

僧侶が社務を取り仕切っていたと、現在では想像しにくい内容から始まった田中宮司のお話。明治維新まで「石清水八幡宮寺」と称され、本殿の北東の山腹にあった「護国寺」

が一山を管掌し、政令はすべて護国寺から出されていたが、これらの施設の後半が明治時代の神仏分離によって撤去されたという。ここで、疑問が湧いた。48もの僧坊があったのなら、そこに居住する僧侶たちの煮炊きや暖を取るための薪は、どうやって調達していたのだろうか。男山の山林から調達していたのだろうか。

「四十八坊は公家や武家の祈願所で、煮炊きの燃料は全国380箇所にある石清水八幡宮寺の荘園から寄進されていたようです。男山の山林はすべて神域であり不入地なので、巨木が倒れても運び出したりせず、そのままにしておく……基本的には人の手を入れない、いわゆる原生林の状態が保たれています」

なるほど、神域であったがゆえに男山の山林は千年以上も手付かずの状態が守られ、裏参道周辺に見られるような極相林に近い植生となったのだ。

「植生の話で言えば、山林植生を研究されている先生とお話をしたとき、淀川の北側にある天王山は北か

らの植生の南限で、淀川の南側にある男山は南からの植生の北限であると教えていただきました」

京都を流れる桂川、宇治川、木津川の三大河川は、八幡市、大山崎町、島本町などにまたがる「三川合流地点」と呼ばれる場所で合流して淀川となり、大阪湾へと向かう。男山は、淀川を挟んで天王山と対峙する。男山を中心とした一帯は「古くからほとんど人手を加えられずに今日に至っている。特に天然林である照葉樹林と古い歴史をもつ竹林とが石清水八幡宮の本殿、楼門等の建造物と一体となって歴史的な風土を保持し、周辺地域の都市化が進む中で、貴重な存在となっている」ことから、1983年には「京都府歴史的な自然環境保全地域」に第1号として指定された。



御神木
御神木のクスノキ(京都府の天然記念物)は、楠木正成が建武元年(1334)に必勝を祈願して奉納したと伝えられる。



裏参道周辺はほぼ極相林に近い林相で、アラカシ、ツブラジイ、クスノキ、タラヨウ、カゴノキなどの常緑広葉樹を主とするが、立地によってはムクノキ、エノキ、イロハモミジなどの落葉広葉樹を混交している。寄進、植栽によるものと思われるクスノキの巨樹が多い。

神社は全体で精神を和やかにするシステム

前述の指定理由に「天然林である照葉樹林と古い歴史をもつ竹林とが本殿、楼門等の建造物と一体となって歴史的風土を保持」している点が挙げられているが、近年、「コミュニティと自然信仰が一体となった地域の拠点としての鎮守の森」を現代的な視点から再評価しようとする動きも出てきた。このように、聖域である鎮守の森が景観や地域との関係において語られるようになってきたことに、話題を変えてみた。

「特に石清水八幡宮は国家鎮護を目的に創始されているので、その傾向が強いと思いますが、社に来て個人的な祈願をするのではなくて、本来は、日々の暮らしへの感謝の気持ちを捧げる……その行為の対象が神社だと考えています。他の宗教と違って、神社がなにがしかの説教をすることはなく、お参りに来られた方がどう感じるかが一番重要なんです。その“どう感じるか”を演出するために、鳥居であったり、参道であったり、鎮守の森であったりと、参詣者が心を静めるための仕掛けがしてある。そのなかに足を踏み入れることによって、浄化され清々しい気持ちになって、“今日も一日生かしていただいて、ありがとうございます”と感謝の念で神様に詣でる場所なんです」



手付かずの天然林に覆われた参道



神社全体で精神を和やかにするシステムになっているのだから、本殿や拝殿にお詣りせねばならないとか、形式的な儀礼のみにとらわれる必要はない。外から眺めているのではなくて、神域に入ることが大切だと説かれる田中宮司。神域と俗世を隔てるのが鎮守の森の役割なのかと伺ってみた。

「もちろん、隔てる意味合いもあるでしょうが、神域と俗世を結ぶ意味合いもありますし、現在のように“どこからどこまで”と明確に線引きされるものでもなく、本来は曖昧模糊としたものでした。神道では、にぎみたま和魂という優しく和やかな魂、あらみたま荒魂という荒々しい魂、くしみたま奇魂という奇跡によって幸を与える魂の3つを、神も人間も持っていると考えます。決して良いことだけを見るのではなく、いろいろな側面を全体的に見る。そこに大自然に対する畏怖畏敬の念を抱く……そうした場であると思います」

多くの恵みをもたらしてくれる一方で、圧倒的な力を持つ自然に畏怖畏敬の念を抱き、「人間は自然の一員である」「まずは自然ありき」と考えたから、森や自然が守られてきた。

「最近では“地球規模での持続可能な社会づくり”“SDGs”といった言葉が注目されるようになり、森林の役割に期待が寄せられるようになりましたが、そうしたことは、日本人はずっと以前から自然に持っていた形のはずです。今は、言葉で明確に説明したり、定義づけしたり、が求められる時代ですが、もっと曖昧でも良いのではないかと感じます。曖昧模糊としているからこそ、自然に対する畏敬の念は日本人のなかに生き続けてきた……鎮守の森は、日本人があみ出した最適な持続可能のかたちだと思います」



よさの三四の森の会 (与謝郡与謝野町)



京都府北部、日本海に面した丹後半島の付け根に位置する与謝野町。大江山連峰をはじめとする山並みや天橋立を望む阿蘇海へと連なる豊かな自然に恵まれた地域で、地域の森林整備をされている「よさの三四の森の会」の皆さんにお話を伺いました。

地域の森林に関心のある有志が集まって

平成 27 年に町主催で「木の駅プロジェクト」についての講習会有り、地域の森の手入れについて関心がある参加者が集まったのがきっかけでした。講座終了後も有志の集まりが継続し、平成 28 年夏頃から会としての活動を開始しました。

もともと活動のフィールドが決まっていたわけではなく、最初は団体の関係者の所有の森林の手入れをしていくうち、「うちも手入れをしてほしい」と声がかかるようになりました。親の代で「ゆくゆくはこの森の木で子ども達の家



が建てられたら」と植林したものの、木材価格の下落や地域の担い手の減少など様々な要因から手が入れられなくなっていた森林の所有者の方から、少しずつ依頼が来るようになっていきます。

——地域の山の恵みを活かす活動を

森林を整備した際に出る間伐材は、これまではチップ用として搬出するなどしてきました。最近では、市場では手に入らない長尺ものの材がないだろうか、と地元の大工さんから声がかかったりして、ぜひ地元の材の有効活用に繋がたいと考えています。

また、町の「滝の千年ツバキ公園」をフィールドに一般の方に参加いただく森林整備のイベントや、子供向けの森林教室なども開催しています。イベントには町内外から学生さんや女性、親子連れなどたくさん参加いただき、準備は大変ですが手応えを感じます。他にメンバーの創意工夫で薪や炭、シイタケづくりなどもしていますが、今後も木工など自分たちでのものづくりにも力を入れていきたいですね。



——森への畏敬・感謝と共に森と生きる

私たちの会の名称の由来は、キコリが木を切る前に三本と四本の線を刻んだヨキ（斧）を木に立てかけ、山の神に森の命をいただくことを感謝し安全を祈願したことにちなんでいます。森への畏敬・感謝の念を大切にしながら、これからも地域の森林を育み、活かしていければと思います。



お話を伺った皆さん—活動で整備した階段の前で（左から）市川さん、小田さん（代表）、巻田さん

団体プロフィール



よさの三四の森の会

設立：平成 28 年
活動地：与謝郡与謝野町
会員数：17 名
活動概要：
森林整備、交流イベント、伐採木の利用など



企業等参加の森林づくり活動報告

府内各地で地域と連携して森林保全の活動に取り組んでおられる企業・団体の活動について、今年度行われた活動からピックアップしてご紹介します。

(協会に送付いただいた活動報告より抜粋して掲載しています)

8月10日(土)	エスベック株式会社	福知山市
9月 8日(日)	公益財団法人日新電機グループ 社会貢献基金	南丹市
10月 5日(土)	グンゼ株式会社	綾部市
	株式会社島津製作所	南丹市
	株式会社SCREEN ホールディングス	亀岡市
10月18日(金)	株式会社平和堂	和束町
10月19日(土)	一般財団法人三洋化成 社会貢献財団	和束町
10月22日(祝)	キョーラク百年の森基金事業	京丹波町
10月23日(水)	オムロン株式会社 京都事業所	京都市
10月26日(土)	西日本旅客鉄道株式会社	南丹市
10月27日(日)	公益財団法人日新電機グループ 社会貢献基金	南丹市
11月 2日(土)	グンゼ株式会社	綾部市
11月 9日(土)	オムロン株式会社 綾部事業所	綾部市
	株式会社京都銀行	京都市
	コカ・コーラボトラーズ ジャパン株式会社	宇治田原町
	一般社団法人京都府トラック協会	京都市
11月13日(水)	オムロン株式会社	京都市
11月16日(土)	京セラ株式会社	京田辺市
	三共精機株式会社・佛教大学	南丹市
	株式会社村田製作所	亀岡市
11月23日(土)	京都乙訓ロータリークラブ	長岡京市
	京都銀行	京都市
	KDDI株式会社	大山崎町
11月24日(日)	高砂熱学工業株式会社大阪支店	南丹市
11月30日(土)	エスベック株式会社	福知山市
	株式会社SCREEN ホールディングス	亀岡市
	オムロン株式会社 京都事務所	京都市
	龍谷大学	大山崎町
12月 7日(土)	オムロン株式会社 京阪奈イノベーションセンタ	井手町
	龍谷大学	大山崎町
12月21日(土)	龍谷大学	大山崎町
2月22日(土)	株式会社虎屋	南丹市

植物図鑑づくり



一般財団法人三洋化成社会貢献財団



高砂熱学工業株式会社大阪支店



KDDI 株式会社



エスベック株式会社



公益財団法人日新電機グループ
社会貢献基金



コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社



株式会社 SCREEN ホールディングス



オムロン株式会社 (左: 京阪奈イノベーションセンタ、右: 京都事業所)



一般社団法人京都府トラック協会



京セラ株式会社



豊かな森を次世代へ

森の出前授業 活動報告

「緑の募金」の取り組みの一環として、府内の幼稚園・保育園・小中学校を対象とする森林環境教育を行う出前授業など実施しています。今年度の事業の様子をお伝えします。

9月30日 池内小学校

5年生の皆さん8人が、竹を利用したものづくりをテーマに地元舞鶴市の池姫竹炭組合の指導で竹灯籠づくり等を体験しました。学校付近の竹林で伐採の様子を見学後、校内で竹をノコギリで切断し、竹灯籠づくりに挑戦。電動ドリルを使って穴をあけて自分好みのデザインに仕上げました。



11月4日 朱い実保育園



11月4日、京都市内の朱い実保育園の保護者会主催で、園児と保護者の78家族が、五感で自然を楽しむ「秋のスタンプラリー」を行い、京都森林インストラクター会の協力のもと、「森の出前授業」を受けました。5つのミッションを達成し、参加した皆さんからは、「楽しかった」、「勉強になった」等の感想をいただきました。

11月8日 北海道立標茶高等学校



2年生の皆さん5人が京都への研修旅行の一環として協会を訪問。SDG s (Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)) における「自然資本」の役割や、森林の多面的機能の重要性、また京都での取り組みについてお話を聞いていただきました。生徒の皆さんからは「SDGsは全て大切だが、一番の土台には自然資本があるということを知ることができた」とご感想をいただきました。

1月22日 葉室幼稚園

4歳児の皆さん85人が、雲ヶ畑コモンズ・結い林業組合の指導で森の生きものたちの話を聞いたあと、し



いたけの菌打ち体験をしました。はじめての体験に目をキラキラさせて打ち込み作業に取り組みされていました。

この「森の出前授業」は、皆様からお寄せいただいた「緑の募金」を財源として実施しています。当協会の「森の人材バンク」には、森林体験活動の指導ができる人材を登録しており、ご希望の学校にご紹介しています。実施を希望される場合は、事務局(巻末参照)までお問い合わせください。

事務局からのお知らせ—活動報告—



令和元年 8月24日 京都市左京区

2019年度緑化運動ポスターコンクール 表彰式開催

府内の小・中・高・支援学校等から1,018点の応募があった同コンクールの表彰式を、府立植物園で開催。作品の一部は全国コンクールへ応募され、亀岡市立保津小の山内杏さんの作品が国土緑化推進機構理事長賞に、京都市立銅駝美術工芸高校の尾崎アロハさんの作品が文部科学大臣賞に入選しました。

最優秀賞の2作品



亀岡市立保津小1年 山内 杏さん
京都市立銅駝美術工芸高校3年 澤山 日向子さん

令和元年 9月7日 京都市東山区ほか

府民公開講座 「京都の歴史と文化遺産を支えた森」開催



国際博物館会議 (ICOM) 京都大会関連イベントとして、千年の歴史を支え、文化の礎となっている森と人との関わりについて、現地を歩きながら学ぶ府民公開講座を開催。留学生を含む35名の皆さんにご参加いただきました。

令和元年 10月2日

一般財団法人三洋化成社会貢献財団との 「森林の利用保全に関する協定」調印式

京都で創業した三洋化成工業株式会社が創立70周年を迎えるにあたり設立した同財団が、環境保全分野の社会貢献活動の一環として和束町湯船地区で森林保全活動を行うこととなり、協定の調印式を行いました。



令和元年 11月29日・12月4日 南丹市

企業担当者のための森林保全活動 体験ワークショップ2019開催

森林保全や生物多様性保全の取組に関心のある企業担当者等を対象とし、同日吉町のスチールの森京都、同美山町の京都大学フィールド科学教育研究センター芦生研究林でそれぞれ実施。森林保全の必要性についての講義のあと、実際にボランティア作業を体験いただきました。



緑の募金ご協力をお願い

緑の募金は、地域や学校の緑化活動や、未来を担う子どもたちの森林環境教育などに使われています。皆様のご協力をお願いいたします。



●郵便振替や銀行振込で

どこでも、誰でも募金ができます。

1. 郵便振替

00990-1-83253

公益社団法人 京都モデルフォレスト協会

2. 銀行振込 京都銀行府庁出張所

普通 3154305

公益社団法人 京都モデルフォレスト協会

理事長 柏原 康夫

●商品購入や募金箱で

「緑の募金付き商品」を購入したり、各所に設置された「緑の募金箱」に直接募金することで、ご協力いただけます。「緑の募金付き商品」開発・販売や募金箱の設置等、様々な形でご協力いただける店舗様、事務所様も募集しています。

令和元年募金実績



14,420,343円

ご協力ありがとうございました。

会員PR欄

EIKOH
英興株式会社

京都スタジアム完成！



約100m³の府内産木材を軒底に使用しています。

発行: 公益社団法人京都モデルフォレスト協会
〒604-8424 京都市中京区西ノ京樋ノ口町123 京都府林業会館3階

TEL&FAX 075-823-0170 E-mail kyomori@kyoto-modelforest.jp

URL <https://www.kyoto-modelforest.jp>

2020年春発行

入会案内資料をご希望の方は
ご連絡ください。

 [facebook](https://www.facebook.com/KyotoModelForest) <https://www.facebook.com/KyotoModelForest>